



表郷中学校だより

令和4年 1月14日(金)

ポ フ ラ

第64号 発行者・文責 校長 菊池 篤志

## 第3学期始業式

1月11日(火)、第3学期始業式を実施しました。寒さ対策、新型コロナウイルス感染症対策のため、放送で実施しました。生徒の皆さんは、各学級で、明るい表情で式に臨んでいました。始業式では、各学年の代表者が、3学期の抱負を述べました。代表者は、**小松楓さん**(1学年)、**橋本琥太郎さん**(2学年)、**緑川桃香さん**(3学年)でした。「一年の計は元旦にあり」と言われますが、新年に当たって、自分の今後を具体的にどうしていくか考えることは大切な事です。3名とも、2学期までの反省を生かし、どのように課題を解消していくか具体的に述べていました。きっとこの3名は着実に課題を解決していくことでしょう。

この3名だけではなく他の生徒の皆さんも3学期の抱負を書き、自己マネジメント力を生かして実践してほしいと思います。

学校だよりでは、個人の写真を掲載しています。

1年 小松楓さん

2年 橋本琥太郎さん

3年 緑川桃香さん

## ペットボトルツリー展示 ～白河駅前広場～

今、各学校・幼稚園などが製作したペットボトルツリーが、白河駅前に展示されています。本校では、文化部が製作に携わり、完成させました。スイカをイメージしたツリーは、赤と緑のコントラストが映え、大変きれいです。文化部の皆さんは、生徒全員に呼びかけてペットボトルを回収し、色塗り、ツリーの製作、明かりの調整など、細かい作業を真剣に進めました。

白河駅に行く場合や車などで通りがかた際は、是非御覧いただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



手前が本校のスイカツリー  
(白黒印刷で申し訳ありません。)

# 「ESD」と「SDGs」

最近、よくテレビ等で「SDGs(エス ディー ジーズ)」が話題になっています。「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)のことで、国連サミットで示されました。これは、2030年までに17の目標を達成していこうとするもので、具体的には169の指標を設けています。「持続可能」とは、環境・貧困・人権・平和・開発といった「持続可能ではない将来」を招く課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題を解決していくための新たな価値観や行動を生み出し、次の世代に引き継いでいける社会をつくりだしていくことを意味しています。

実は、「持続可能な開発」という言葉は、40年前に示されていました。具体的には、次世代に向けて持続していける社会をつくる人材を育成していく「持続可能な開発のための教育」(ESD:Education for Sustainable Development)として示されたものです。この「ESD」に約40年間取り組んできたのですが、十分な効果が見られなかったこともあり、2015年の国連サミットで採択され、具体的な目標や指標が示されたということです。

本校の教育課程では、様々な教科等でESDに取り組んできましたが、今後は、更にSDGsを意識して進めていかなければならないと思います。身近なところで可能な事から無理なく取り組んでいけるよう工夫していきたいと思います。

御家庭でも、「SDGs」について、話題にしていただけたら幸いです。

